

---

---

## 冬休み明け集会挨拶 2011 1/17(月)

---

---

おはようございます。

冬休み期間中、講習や部活動の練習、センター試験など様々ありましたが、皆さんはいかがでしたか。2011年、新しい年の始めとして、順調なスタートを切ることができたでしょうか。

昨年の世相を表す漢字は「暑」でしたが、今年の抱負を漢字で表すとすると皆さんは何を考えますか。私が今強く思っている漢字は「挑戦」、チャレンジの「挑」です。何事にも挑戦し、旭川龍谷高校の生徒一人一人が目標を持ってしっかりと取り組むことができるよう、がんばってほしいと思います。今年は卯年で私の干支に当たります。思いっきりジャンプしたいと思っています。

さて、これまでも、集会の際に皆さんに話をしてきたことですが、みんなが安心して思いっきり学べる学校にするために、

ルールを守ること

毎日の積みかさねを大事にすること

この2つのことをお話しし、学校生活に関しては、元気よく挨拶をしよう、時間を守って遅刻をゼロにしようと呼びかけてきたところです。また、「卑怯なことは許さない」ということも言ってきましたが、こうした中で考えてみたいことは、皆さんが普段使っている、伝えあう言葉についてです。自分の思っていることがうまく相手に伝わらず誤解されたり、相手の言っていることを十分に理解できずに違う意味にとったりすることはよくあることですが、そのことが相手との人間関係までうまくいかないことにつながってしまうことはなんとか避けたいものです。

うまく思いを伝えられず、また、言葉を取り違えてしまい、そのことがいじめにつながっていった例もあります。あらためて、伝えあう言葉・伝えあう力について考えてみたいと思います。

私は自分の思いなどを伝える根底に、相手への思いやりが必要ではないかと思っています。相手のことを考えずに自分の主張だけを一方的に述べていませんか。生徒諸君がよく使う「きもい」「うざい」「死ね」などの言葉は何気なく使っているのですが、相手への思いやりを基盤にすることを考えたらとても耐えられない言葉です。「きもい」「うざい」「死ね」の言葉を学校から一掃して、「ありがとう」の言葉が飛び交う学校にしていこうではありませんか。

平成22年度も残り僅かとなりました。3月までの期間で、皆さん一人一人が日々努力を積み重ねて行ってほしいと思います。この1年間をしっかりと締めくくって、卒業、進級に向けて有終の美を飾ってください。

今年の元旦の朝日新聞に、北海道出身の登山家、栗城 史多（くりき のぶかず）さんのインタビュー記事が掲載されていました。29歳の彼は高校卒業後、夢も目標もない「ニート」でしたが地上でもっとも宇宙に近いエベレストで、単独・無酸素登頂に挑蒙としています。彼は、「成功の反対は失敗じゃない。何もしないことだと思う。できないという壁は自分が勝手に作り上げているもの。僕はそんな幻想をうち破りたい」と述べていました。

「成功の反対は何もしないこと。不可能という幻想をうち破りたい」と言い切った彼の言葉が印象的でした。何もしないで負けるのではなく、挑戦、チャレンジャーとして思いっきりガンバろうとしている彼の姿勢に熱いものを感じたところです。毎日の努力を積み重ねている生徒諸君にとっても、参考になる生き方ではないでしょうか。

3月まで、寒さで気持ちの引き締まる季節です。元気に、気持ちを込めた学校生活を期待します。

旭川龍谷高等学校 校長 小野寺 敏光